

# ～ ヤマケイ通信 ～



いつもお世話になり、ありがとうございます。

9月に入り、ようやく過ごしやすい季節になってきました。

今年の夏は猛暑が続いた上、各地で猛烈な雨も降り、気象庁は「異常気象」だったとしています。今後も各地で異常気象が発生すると言われていいますので、十分に気を付けるようにして下さい。

## 今年の夏は「異常気象」だった

今月2日、気象庁は今夏（6～8月）の日本の平均気温が平年を1・06度上回り、1898年の観測開始以来4番目に高かったと発表しています。各地で強い陽射しが照りつけ、太平洋側を中心に35度を上回る猛暑日が続き、8月12日には高知県四万十市で41度に達し、国内の最高気温の記録を6年ぶりに塗り替えました。

また、全国927観測地点のうち、125地点で観測史上最高気温を更新し、日本国中が猛暑に包まれました。そして雨の被害も相次ぎ、重大な災害が起きる目安の一つとされる1時間100ミリ以上の豪雨が各地で降り、今後も日本中いつどこで記録的な雨が降ってもおかしくないといった状況です。

こうした異常気象は世界各国でもみられ、今年の夏、ロシア極東部を流れるアムール川流域では、大雨で記録的な洪水となり、2万人近い住民が避難しました。

また、アフリカの南部では、この30年で最も深刻な干ばつに見舞われ、200万人以上が食糧不足に陥りました。世界で多発する洪水や干ばつは、新たな貧困と紛争を生む要因にもなっています。

## 異常気象の原因は「地球温暖化」

こうした異常気象の大きな背景にあるのは地球温暖化です。最近の研究によると、地球温暖化は地球全体が、まんべんなく、ゆっくり温度が上がっていく現象ではなく、場所によって猛烈な暑さや厳しい干ばつ、あるいは豪雨や大雪といった、一つ一つの気象現象が極端化し、それでも地球全体としては徐々に気温が上がっていくようになるとみられています。地球温暖化の対策は2つの方向で考える必要があるとされ、一つは二酸化炭素など温暖化ガスの削減です。技術革新を進めたり、暮らしを見直したりすることによって削減をはかっていくことは、世界の最大の課題の一つですが、各国の利害や経済情勢などが絡んで、なかなか進んでいません。

そこでもう一つの対策である、温暖化に適応した社会を作ることが重要になります。生活面でいえば、今年は熱中症の患者が過去最も多くなり、多くの人に熱中症対策の重要性をわかってもらったり、豪雨や土砂災害の対策を強化する必要があります。気候は私たちの暮らしと深く関わっていますから、しっかり適応策を考えなくてはなりません。国内でも日本海を中心に海面の温度も上昇しています。それに伴い、各地で豪雨が降ったり、台風が強い勢力のまま北上することも考えられますので、9月も引き続き気象情報に十分注意して下さい。

ご講読ありがとうございました。次回来月号をお楽しみに（^o^）



有限会社 山本圭商店

各種包装機用超硬カッター、セラミック加工、テフロン加工、各種表面処理加工、包装資材全般販売  
〒537-0012 大阪市東成区大今里 3-11-24 TEL 06-6971-1347 FAX 06-6971-2201 www.tyoukou.jp